第８回　家活グランプリ　入選作品講評

審査委員長　北川　太一（摂南大学農学部 教授）

最優秀賞

私たちの教科書（テキスト）は『家の光』

島根県ＪＡしまね　　横山　丈訓さん

活動だけにとどまらず、組合員・職員教育、事業推進の教科書として『家の光』を位置づけて、「ルミエール活動」と名付けた家活に取り組みました。職員向けの教育文化セミナーを開催し、そこでは地区本部長と家の光協会職員の解説を交えた動画視聴方式を採用。そのことによって、職員の普及・活用意識の醸成に役立てることができました。事業推進では、信用・共済担当者と連携して、『家の光』12 月号別冊付録を活用した組合員向けのセミナーを開催。その結果、『家の光』の新規購読や共済事業への具体的な相談、さらには新たな投資信託契約の獲得にも結びつきました。『家の光』がさまざまな形で活動を支え、組合員との接点づくりや事業の推進にも役立ち、ＪＡが地域社会の中で存在感を高めることにつながっていることが実感できる作品です。

優秀賞

家活が築く！安心して暮らせる豊かな地域社会

茨城県ＪＡ水戸　　田山　絵美さん

ＪＡが 3 か年計画で掲げる「持続可能で安心して暮らせる豊かな地域社会づくり」のために、担当者として何ができるだろうかと考えた結果、女性部も含めて『家の光』を活用したくらしの活動を進めることが重要だと考えました。そこでまず、全職員向けに『家の光』の学習会を開催。特に、「購読はしているものの十分に読んでいない」、「日頃の業務にどのように役立つのかわからない」といった声が多い若手職員を念頭に置き、意識改革につなげました。家活の中心である女性部活動については、愛読者拡大運動の一環として家の光編集部への視察見学を実施するとともに、米粉レシピを活用した料理教室、折り紙で作る落ちない三角しおりづくり、新聞紙を使ったエコバックづくりやネコのボンボンストラップづくりなど多彩な活動を展開。広報誌にも積極的に活動の様子を掲載したところ、『家の光』の増部へと結びつきました。

優秀賞

『家の光』が結ぶご縁

島根県ＪＡしまね　　長島　敬子さん

コロナ禍の影響が少しずつ緩和されつつあるなかで、ＪＡでは、支店再編による店舗の無人化が進みました。そこで、組合員や地域とのつながりを継続しようと、『家の光』2023 年 3 月号掲載の「女性が引き継ぐ地域唯一のお店」の記事からもヒントを得て、感謝のイベント、女性部・やすらぎ会共同で「おもてなしカフェ」などを開催したところ、多くの来場者がありました。この取り組みがきっかけとなって、みんなが集う場所、地域のくらしと笑顔を支える場として、「ほっこりカフェ」「年金カフェ」「笑みちゃんカフェ」、さらに夏休みには『ちゃぐりん』を活用した「こどもカフェ」など、他の地区でもさまざまなカフェが開催され活動の輪が広がりました。こうした活動によって支部同士のつながりも強くなり、防災研修会の開催や能登地域への支援にもつながっています。

佳作

声を聴くことを心がけて!!

愛知県ＪＡあいち中央　　岩井　ゆかりさん

これまでの活動テーマである「対話運動をその先に繋げるアクティブメンバーシップ」と「対話から繋ぐ」は継続しながら、新たなテーマとして「『活動と事業』『活動と活動』『意思反映、参画』へと繋ぐ活動」を決定し、三つのことを重点的に取り組みました。一つめは、SDGs を意識した活動で、『家の光』2023 年 3 月号を活用したリースづくり、2022 年 8 月号を活用した玉ねぎの皮の染めものづくりを開催し、再利用への意識を高めました。二つめは、次世代の活動で、ＪＡ厚生連と連携した親子料理教室は、フレミズの森会員の増加にもつながりました。三つめは「しんあんレディース」の活動で、通常の活動のほかに会議室の利用方法の見直しや名簿の整理など、さまざまな意見を反映した運営の見直しを行いました。こうした活動によって組合員との対話がいっそう深まり、組合員や共済の話をスムーズに行うことができ、事業への効果や仲間づくりへと繋がっています。

佳作

生活担当ではないからこそできる家活

福井県ＪＡ福井県　　笹原　久美子さん

支店の共済課に属しLAとして渉外活動に励みながら、ＪＡが実施する「家の光ディスプレイコンテスト」に取り組んでいます。3年目の今年は、今一度原点回帰をしようと、『家の光』そのものに目を向けてもらうことを目標に実施。『家の光』を十分に知らない人を念頭に置いて、支店長の理解も得ながら、多くの人が目を引く表紙12か月分をラミネートして支店玄関の正面スペースにパネルを設置。支店職員のアドバイスも参考にしながら、『家の光』本誌を配置し、支店職員による手書きのおすすめポイントをPOP風に展示しました。さらに、こうしたディスプレイは支店訪問者に効果が限定されるため、全組合員に配布する「支店瓦版」にも活動の記事を掲載したところ多くの反応があり、LA として訪問する際の対話のきっかけになるなど、事業推進にも良い影響を与えています。

佳作

ＪＡの礎『家の光』

鹿児島県ＪＡ南さつま　　西尾　あかねさん

「『家の光』をどうすれば購読・活用してもらえるのか」を考えながら、長年にわたる生活指導員としての経験を活かして『家の光』を活用した料理教室を継続して実施。毎月3か所、『家の光』の購読も条件にして開催しています。女性部が解散した地区でも料理教室や手芸教室の要望があり実施したところ、女性部が復活して部員増にもつながりました。女性大学のカリキュラムにも必ず家活を組み入れ、『家の光』購読者で構成する「ひかりサークル」で毎回家活に関する企画を考えるなど、購読者自らが活用することを重視しています。また、『家の光』の普及に職員の協力が得られるようにメッセージカードを作成し、ＪＡの掲示板にもアップしながら職員の普及に活用できるように工夫するとともに、女性部向けに家活奨励金要領を作成してグループ活動の際に購読者の人数に応じて奨励金を支払うことで、『家の光』の増部にもつなげました。